

## 第1回神崎市総合計画審議会 議事録

日時：令和4年9月8日（木）15：00～

場所：神崎市役所 本庁舎 3階 大会議室

出席者（神崎市総合計画審議会 委員名簿）

	氏名	所属及び役職など	区分	備考
1号	平山 文也	神崎市議会	市議会の議員	
〃	永 沼 彰	神崎市議会	市議会の議員	
〃	山口 義文	神崎市議会	市議会の議員	
2号	實松 孝則	佐賀県農業協同組合 三神エリア 総合部長	公共的団体の職員	
〃	永 沼 功	神崎市商工会 会長	公共的団体の職員	
〃	森崎 三善	佐賀東部森林組合 組合長	公共的団体の職員	◎
3号	野 田 聰	神崎町地域懇談会 副会長	学識経験を有する者	
〃	佐藤 悦子	千代田町地域懇談会 副会長	学識経験を有する者	
〃	真島 久光	脊振町地域懇談会 副会長	学識経験を有する者	
〃	高尾 あい子	神崎市教育委員会 教育委員	学識経験を有する者	
4号	岸川 政晴	神崎市区長会 会長	市長が特に必要と認める者	
〃	筒井 信秀	神崎市身体障害者福祉協会 会長	市長が特に必要と認める者	
〃	田中 和子	神崎市母子保健推進協議会 副会長	市長が特に必要と認める者	
〃	馬場崎 安則	神崎市老人クラブ連合会 会長	市長が特に必要と認める者	
〃	安田 みどり	西九州大学 教授	市長が特に必要と認める者	○

◎…会長 ○…副会長

### 【配布資料】

- ・資料1 第2次神崎市総合計画（後期基本計画）の概要について
- ・資料2 市民アンケート調査について

## 【 次 第 】

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ
- 4 委員の紹介
- 5 会長・副会長の選出
- 6 諮問
- 7 議題
  - (1) 第2次神崎市総合計画（後期基本計画）の概要について
  - (2) 市民アンケート調査について
8. その他
9. 閉会

## 《 議 事 内 容 》

### (1) 第2次神崎市総合計画（後期基本計画）の概要について

～（資料1）事務局より説明～

- 会 長：ただいま、後期基本計画の内容案について説明があった。それでは、この件について、皆様方のご意見を伺いたいと思うが、何かないか。
- 委 員：ページ2の策定のポイントの④と⑥の横文字、グリーンTRANSフォーメーションとSDGsの日本語略を教えて欲しい。
- 事 務 局：GXは、グリーンTRANSフォーメーションとカタカナで書いているが、政府はカーボンニュートラル、2020年10月に、政府が、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする取り組みを目指すという宣言をしている。二酸化炭素とかメタン、一酸化炭素、フロンガスなどの温室効果ガスの排出量を、吸収量、木材等で吸収する、排出するものと吸収するものをプラスマイナス0にしていくというような環境的な取組である。SDGsについては、平成27年9月に開催された国連の持続可能な開発サミットにおいて採択され、令和12年度までに、地球規模で取り組むべき国際的な目標のことで、持続可能な開発目標として17の目標が掲げられている。
- 委 員：横文字についてはどこかでいいので、※印で内容を書くことに注意して記載して欲しい。
- 委 員：計画の評価についてヒアリングして課題整理することになっているが、その課題について委員に説明して欲しい。
- 事 務 局：各課にヒアリングを行って課題整理をした後、第3回の計画素案の際に、課題について、今回このような素案にしたという形で説明させていただく。
- 委 員：資料の2ページ目の、数値目標の設定ということで、前期基本計画でも当然数

値目標があったと思う。その現状値を把握し、実績ということになるが、その積み上げ、前段になる実施計画でどういった成果が出たのかというふうな結果報告というものはあるのか。

事務局：その辺も含めてヒアリング等を行い、課題を整理して、実施計画からこういった数値目標が達成できていなかった、などを第3回の素案説明の際に、併せて説明させていただく。

## (2) 市民アンケート調査について

### ～(資料2)事務局より説明～

会長：ただいまアンケート等について説明があった。この件について、皆様からご意見を賜りたいと思うが、何か意見はないか。

委員：アンケートについて何点かお尋ねしたい。アンケートの見直しが必要ではないかと思う。例えば、1ページの1番下、問6、住みやすいかどうかを聞いているが、これは住民の満足度を聞いているが、問7も一緒であり、問6、問7に対して、具体的に何かということが問6、問7にない。それが出てくるのは、問10のところの下の方に例えば、2ページで言うなら、1番から16番まで、色んな質問項目について感じることを書きなさいとあるが、これは住民の満足度に通ずる話である。3ページの結果は、これは不満足に通じる話である。このため、この2ページ、3ページの上からは、これはむしろ問6、問7にリンクした形で問うべきではないかと思う。そういう意味では、配列を見直した方が良いのではないかと思う。次に、3ページの問9が、1番から5番まで、それぞれの項目について、これも満足度を聞いている。ここだけ見た時に、アンケートの回答者が何を言っているのかというのが理解できないのではないかと思う。そういう意味では、我々のところには概要版をいただいたが、せめて、それくらいは付けるべきだと思う。それから9ページのSDGsの問9の設問に対して、理解できる人がどれだけいるのだろうか。ここにあるように、17個の目標があるが、これをもう少し具体化した説明が必要と感じる。

事務局：3ページ、まちづくりの基本理念の部分で、幸せ感じる暮らしやすいまちづくり、これについてどう考えているかという問いは、これだけではわからないということだったので、アンケートに審議会の委員さんたちに配布した概要版を同封したいと考える。合わせて、SDGsについて、17個の色が付いたマス目状のものの絵がついたものをわかりやすく1枚にまとめて、こちらについても同封させていただきたく。問6、問7、問8という構成については、すべて、前回と比較を対象としているので、今、委員からあったように、構成が変えられるか、今1度検討してみたい。この総合計画は、総合戦略とリンクしており、総合戦略の数値目標とリンクしているのでその辺を検討して、後日回答させていただく。

委員：このアンケートの内容を見る限り、アンケート用紙は前回と同じ人たちに送られ

るのか。

事務局：市民の中から2,000人、無作為抽出である。このため、前回は抽出されて回答された方がいるかもしれないがバラバラになる。

委員：まず、この3ページの質問、この5年間、まちづくりの基本理念の実現に向けた取り組みが進んでいると感じるかという質問に対して、1から5までであるが、これは皆さんわかって承知されているアンケートか。

事務局：承知していただいて、回答していただける形になる。

委員：2つ目に、前回2,000人に出して回収率26%であるが、なぜ回収率が悪かったかという分析をしたか。分析をして回収率を上げる取り組みをあげて欲しい。なぜ悪かったのか討議して、それなりに原因を突き詰めるべきじゃないかと思う。それがあって初めて回収率を上げる取り組みに繋がってくるのではないかと思う。

事務局：回収率が26%であり、一応、数字だけ見たら低いが、アンケートの信頼度からは26%という数値は悪い数字ではないと考える。全体の回答数が519となっているので、そこまで回収率が悪いものでもない。

委員：言われたとおりで26%あれば確実に分析できる。

委員：住みやすいか、住みにくいかというのは、ずっと神埼あるいは千代田あるいは脊振に住んでる方は、住みやすいか、住みにくいかは分からないと思う。他の県から来た人、あるいは異動で神崎市に来た人に、住みやすいですか、住みにくいですかって聞くと、住みやすいです、住みにくいですという答えがすぐ取れると思うが、ずっと同じ場所に住んで、神崎市が住みやすいですかと聞かれても、何か私はピンとこない。

事務局：確かに比較対象がない中で、神崎市が住みやすいか、住みにくいかというのは、なかなか答えづらいと思うが、おそらくずっと住まれている方は住みやすいから住まれているので、そういった方には住みやすいという回答をいただけるものと考えている。

委員：このアンケート自体が、いまいちだなど感じる場所がある。例えば、特に脊振の方はそうだろうと思うが、日頃の買い物はどうされているのかという設問がこの中にはない。もし、そういう事があるならば、脊振の方は、神埼まで下ってこない、買い物はできないと思う。あるいは、交通の足はどうかというような設問があれば。このアンケートの中で、日頃、日常の生活に関することで困ることはないかという設問が一切ない。

事務局：補足になるが、問1から問5まではクロス集計するための問いになっている。例えば、問4で1番、生まれたときからずっと進んでいる。問4の2番、神崎市で生まれ一度転出したが戻って来た。3番、神崎市外で生まれ、他の市町村から転入してきた。これにより、こういった形でずっと住んでいたのか、その辺がわかる。この人たちにおいて、住みやすいと思っているのか、住みにくいと思っているかをクロス集計するので、例えば、ずっと神崎市に住んでいた方が神崎市を住みにくいと思っているという回答が多かった場合には、その辺を

分析して今後の施策に生かしたいと考えている。分析を行うアンケートになっている。

委員：アンケートの調査は、1ページから、最終的に11ページまでである。それで、2,000人の方に11ページまで調査するよりも、5ページを1,000人にする。あと5ページを1,000人にし、トータルでは2,000人の調査依頼という形になれば、5ページぐらいは目を通すのは簡単である。しかし、11ページとなると苦になる方もあろうかと思う。そういう考え方の中で回収率が26%よりも、私は倍近くなりはしないかと考える。

事務局：分けた場合は、クロス調査など前回の調査との比較、分析が難しくなるので、今回はどうしても2,000人の方に、すべてを回答してもらうという形になる。

委員：仕事と言うか、家族、学生なのか、主婦なのか、会社員か、例えば、うちの大学の学生がよそからきて、そのまま神崎市に住みたいと思うのかなど、それぞれの目線で神崎市をどう思っているのか、できれば、学生はそのまま住みついて欲しいなと思っているが、その場合、何が足りないのか。そのまま結婚して住みついてほしいなと思っているが、子育て世代がどう思っているのかなど、どういう方、どういう人たちが具体的にそういうこととの振り分けと対象者を具体的に想像することができればいいと思う。

事務局：職業について、前回のアンケートから削除されており、なぜ削除されたかの理由については、後でお答えしたいと思う。子育てについてももう少し深く聞いた方が良いとの意見についても検討し、後日、先程の質問とあわせて委員に回答の方を送付したいと考えている。

委員：総合計画を読ませていただいて、改革していくのは大変だなと思いつつも、とても必要なことだなと思っている。その中で、今回、ポイントとしてあげられたグリーントラストフォーメンションとかSDGsとか、今までになかった質問を取り入れられているのが非常にありがたいなと思った。SDGsを、そういう視点をここに入れてもらえるということは、策定の最初の頃はとても考えられないことだったなあと今思い返している。できれば、ぜひ、基本理念の中に、人権というものをに入れていただきたい。幸せを感じる、幸せ溢れる、幸せ生み出す、幸せ高めるという、この幸せはやっぱり人権が大きな根っこにあると思う。基本理念の中にそれが入っていると、入っていないのでは、倍違うのではないかと考える。この第4章、神崎市のまちづくりの基本理念の中にそれを謳ってもらえないかと強く思っている。

事務局：基本理念は、基本構想の方で定めており、今回は、後期の基本計画であり、基本理念の4の中に、人権に関すること、男女共同参画の推進に関することを、施策や方針で盛り込んでいるので、今回、基本理念の方は変えない考えである。

委員：どこにあるか教えて欲しい。

事務局：計画書の21ページの方に基本理念があり、こちらは構想になっている。今回、構想の下の基本計画の方であり、85ページの基本理念4の中に男女共同

参画の推進ということで書いており、この辺が人権に関することだと考えている。97 ページである。

委員：人権は、いつも男女共同参画に結びつけられてしまうが、もう少し大きな、グローバルな感じでの人権というふうに考えている。人権を無視したような、いろんなことがある。それを、神崎市民として人権っていうものをしっかり捉えるという意味でも大きく謳っていいのではないかと思う。

事務局：今回、施策の方に、委員が考えられる人権に関して検討して、素案等において盛り込んでいきたいと考える。

委員：コンサルに聞きたいが、今回のアンケートは、例えば、政府が作ったたたき台とか、何かそんなものがあるのか。いろんな意見が皆さんから出ているが、地に足がついてないところが感じられる。先程の人権の話にしても、SDGsに取り組んでいるかという設問があるが、9 ページで言うと5 番とか10 番、16 番は、まさに人権の話である。SDGs 知っていますか、取り組んでいるかは大きな質問である。このSDGs が、ここで設問として取り上げられたこと自体は良しとしても、本来、SDGs というのは他の項目にも繋がってきている。そういう意味でアンケートの全体的な設問、質問というか、そこら辺のやり方、内容が何か、ちょっと少しバランスが崩れてるかなど

会長：委員の質問について協議をしていただいて、そこら辺も考えていただければ良いと思う。他にないか。

委員：このアンケート調査は、前期の計画と比較するために、同じ内容を踏襲したような質問になっているが、前期とどういったふうに変わってきたのかという比較は大変必要だと思う。一方、先程、委員の方から、例えば、学生を相手にするとか、あるいは年齢層、色んな団体、色んな組織があると思うが、そういった実態をつかむためには、そういった取り組み、神崎市に住所を置いていない方でも神崎市をどう思っているのかとそういったことも、取り組みというもの、非常に参考になるのではないかなという気がする。そこら辺のことも含めて検討して欲しい。

事務局：質問については、今回考えているのが、2,000 人という数の中で、神崎町、千代田町、脊振町、それぞれで18 歳から19 歳が何人いらっしゃるとか、70 歳から90 歳の方が千代田町に何人いらっしゃるとか、そういう世代ごとに分けており、按分した数で市内全体的に均等的に、世代的に男女別にいくようなところで抽出をしようとしている。そういったことから、今のアンケートの中で設問を考えさせていただいており、いろいろな意味で男女、地域、そういったところから、現状の生の声がいただけるのではないかと整理をしていたところである。補足して、どうしても前回聞いた内容等を比較するが、前期の基本計画の施策を評価分析するにあたって、例えば、子育て世代で神崎市に住みやすいつて感じているかっていう方が減ったら、施策が不十分だったのかとか、もう少し有効な施策を増やさないといけないとか、例えば、子育てに満足している方が増えた場合には、今の取り組みをもっと推進していこうとかいう、ど

うしても施策の評価分析をする時に、比較っていうのはどうしても5ヵ年、5年前と今回はどうなのかを評価分析する場合の材料となるので、新たに質問を増やすことはできるが、今回、前期を評価するにあたって、前期の施策に満足してるか、前期より減ったとかっていうのを比較する場合には、どうしても同じ質問をしないとなかなか評価が難しいということもあってこのような形になっている。

会 長：質問をさせていただく方は、抽出ということで、前回と変わるが。

事 務 局：例えば、神埼町の50歳から60歳のところに集中して、1,000人に行ってしまうとか、そういうことはなくて、地域的に世代ごとに10歳区分ぐらいで、そういった世帯部分で、男女別でということで、今の実数に応じた数で按分して、2,000人の方にご意見をいただくという取り組みをしようと考えている。

会 長：他に何かないか。それでは、意見が出尽くしたので、市民アンケート調査については、先程の意見等も参考に、アンケートの内容を検討していただき、検討したアンケートで調査をお願いしたいと思っている。本日の議題は、以上で終わりとさせていただく。進行を事務局に渡す。

8. その他

9. 閉会

事 務 局：その他は特別にはないが、次回の審議会は、現在のところ、10月下旬頃を予定しているので、その時期になり、準備等できたら、改めて連絡し、2回目の会議の方をさせていただくのでよろしくお願ひしたい。これで、本日の会議を閉会したい。

-----議事終了-----